

新・東中とんぼ通信

発行 横浜市立若葉台東中学校 編集責任 鈴木 徹



第3号

春の校庭ふらふら歩き

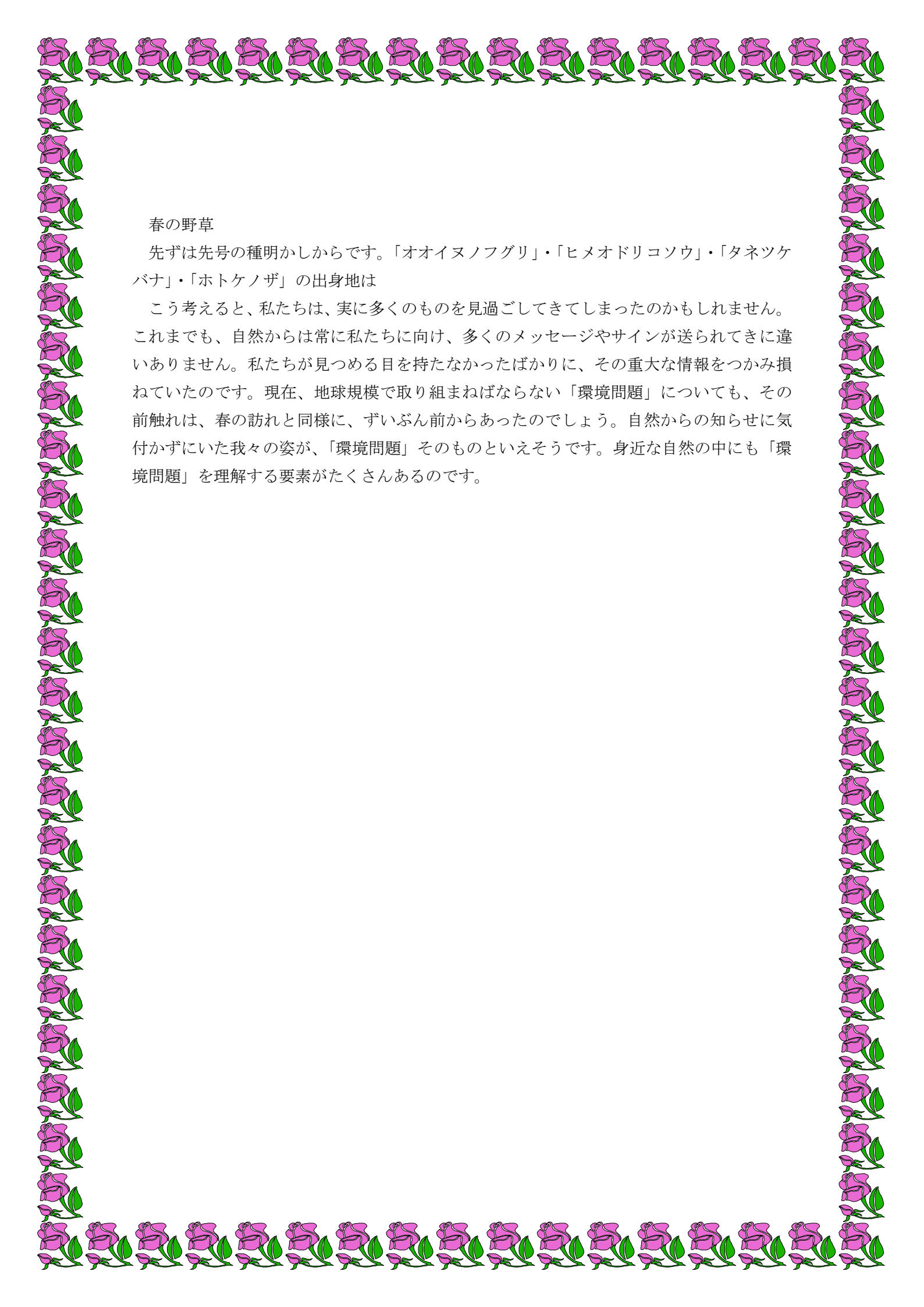


今回は、校舎内の話題でした。今回は、春のぽかぽか陽気に誘われて校庭に出てみた様子をお伝えしようと思います。ここに掲載されている写真を撮影したのは、平成17年3月15日、啓蟄（意味は辞書で引いてください）を過ぎたといっても、まだ寒い日もある、早春ともいえる時期でした。

新2，3年生のみなさんは、今年は、**ウメ**が満開だったことに気がつきましたか。続いて**アンズ**もよく咲きました。辺りにはとても良い香りがあふれだし、気分を優しくしてくれます。ふだんは気付きにくいのですが、これも、樹木からの大事なプレゼントですね。今年もたくさん結実してくれると、総合的な学習の時間で東中ブランドが楽しみになります。

ここで、足下に目線を下ろしてみます。早春とはいえ、たくさんの花が開花しています。これらの植物については、2，3年生の皆さんは既に理科の授業で学習済みでしょう。新1年生の皆さんは、授業を楽しんでいることでしょうか。ところで、写真に写された花々の出身地をご存じでしょうか。（種明かしは次号にて）まずは参考までに、各花の名前を挙げておこうと思います。写真の上から、「オオイヌノフグリ」・「ヒメオドリコソウ」・「タネツケバナ」・「ホトケノザ」の4種類です。この中には、日本以外の出身者もいます。いわゆる外来種と呼ばれる植物です。なんだか落ち着き払って、周りになじんでいる様子です。環境適応とはこういうことなのでしょう。シャンハイガニやブラックバスほど話題にはなりません、さまざまな外来種が出身地以外の世界へ、確実に進出しているのです。

たった15分ほどの自然ウォッチングで、たくさん春の息吹を発見できました。東中の自然環境はなんて素晴らしいのでしょうか。ぜひ、皆さんも気軽に観察してみてください。東中の自然は、驚きの発見や美しさに満ちあふれています。ただし、観察する際には、「**自然を見つめる意識を持つ**」ことを心がけて下さい。ただ漫然と自然を見ていても、見落としてしまうことや気付かないものは多いのです。だから、東中の自然環境を生かして、みなさんが、意識的に自然を見つめる体験を重ねていただくと、大変うれしいと思うのです。



春の野草

先ずは先号の種明かしからです。「オオイヌノフグリ」・「ヒメオドリコソウ」・「タネツケバナ」・「ホトケノザ」の出身地は

こう考えると、私たちは、実に多くのものを見過ごしてきてしまったのかもしれませんが。これまでも、自然からは常に私たちに向け、多くのメッセージやサインが送られてきに来ています。私たちが見つめる目を持たなかったばかりに、その重大な情報をつかみ損ねていたのです。現在、地球規模で取り組まねばならない「環境問題」についても、その前触れは、春の訪れと同様に、ずいぶん前からあったのでしょ。自然からの知らせに気付かずにいた我々の姿が、「環境問題」そのものといえそうです。身近な自然の中にも「環境問題」を理解する要素がたくさんあるのです。